優秀賞

『クジラアタマの王様』

伊坂幸太郎著、新潮社、2022.

田中　穂乃花（国際学部　国際文化学科　１年）

私のおすすめしたい本は伊坂幸太郎さんの『クジラアタマの王様』です。伊坂幸太郎さんは現実にありそうでギリギリない、不思議な現象や事件についての小説を書くことで有名な小説家で私が大好きな小説家の一人です。そんな伊坂幸太郎さんの比較的新しい作品であるこの本は、新たな試みがされています。それは、本に絵のパートが挟まれているということです。

本に絵が挟まれてるのはどういうことかを説明したいと思います。この仕掛けには二つの意味があります。一つ目は、文章では表現できないアンニュイさ、不思議な感覚を読み手に与えることができる、という意味です。文章で全て書ききるのではなく、絵で曖昧な表現をすることで物語に深みを持たせています。二つ目は、この絵と文章のパートを交互にすることで、話の進み方が面白く進んでいくことです。実は、この絵のパートは主人公と見る夢を、文章は主人公が生きている現実での出来事を表しています。必然的に夢のパート、つまり絵のパートが文章のパートよりも短いのですが、その効果によって、次の絵のパートを楽しみに文章を読むことができます。なので、普段小説を読まない人、文章をたくさん読むことが苦手な人も楽しめる本なのです。また、この本の面白いポイントはもう一つあります。それは、現実と夢がリンクしていることです。この本の主人公である会社員の男「岸」は製菓会社で働いています。ある日、岸は奇妙な夢を見ました。そして、その日に自分の会社が販売しているお菓子に画鋲が入っていたとクレームが入り、大ごとになってしまうのです。そして、岸はクレームや世間の罵倒、リストラの危機などにさらされながらも奮闘していきます。そして、その後も異物混入以外にも様々なトラブルに巻き込まれるのですが、その度に岸は夢を見ていることに気づきます。そして、夢と現実がリンクしていること、そして夢で上手くいかないと現実も上手くいかないことにも気づきます。果たして岸は夢と現実のリンクを利用してトラブルに対応していけるのか、そしてこの謎の夢の正体は一体何なのかーー

ぜひ実際に読んで確かめてみてください！